

熊本県高等学校教育研究会音楽部会（高音研）夏期講習会 平成28年8月
16日

10時 基礎編 箏の基礎と正しいフォーム

11時 応用編 「さくら」からの展開

12時 昼食

13時 古典の理解と創作

枕草子「夏は夜」をテーマに ～節と段物と序破急～

15時半 終了

講師 藤川いずみ

- <現状の問題点> さくら→六段 技術的に飛躍しすぎる
さくらの次に何をすれば良いか？事前のアンケートより。
< 目 標 > 現場に即した有効的な高校用の箏指導メソッドを探る。

【午前中の講座】箏の基礎と応用

平調子 一 D 二 G 三 A 四 B \flat 五 D 六 E \flat 七 G 八 A 九 B \flat 十 D 斗 E \flat 為 G 巾 A

① 深さ / 旋律を体に刻み箏の基礎テンプレートを作る

さくら→

旋律を暗譜 <右手のタッチとフォームの確認>

伴奏を学習 <右手中指の練習>

コードに古典のフレーズ <古曲の手法>

旋律と伴奏を交代でさくらの合奏 <右手のテクニック>

② 幅 / 広げる

さくら→平調子の曲

「荒城の月」 押し手 <左手テクニック①>、

箏譜の読み方 <箏譜の表記の理解>

→乃木調子 唱歌 平調子より 四 B 六 E 九 B 斗 E ↑ (半音上げ)

日本のメロディを美しく弾く

左手で余韻を操作し音色に趣を加味 <左手テクニック②>

→楽調子 民謡系 <郷土の歌を残す> 乃木調子より 四 C 九 C ↑

③ コラボ / 洋楽器や合唱とコラボして、楽曲に日本の要素を取り入れる。

五線譜を見てそのまま箏で弾く方法 教科書の曲が一瞬で弾ける。

→デアトニックで調弦し、絃に色付け。*色鉛筆とタコ糸

一 C 二 D 三 E 四 F 五 G 六 A 七 B 八 C 九 D 十 E 斗 F 為 G 巾 A

【午後の講座】創作と古典の理解 ～節と段物と序破急～

『序破急創作』 遊びの要素も含めた古典の型による創作

目的：節や段物の理解と序破急の感覚を体感して、箏の古典の理解を深める。

作業：節を作り、段物による序破急の曲を創作し、弾き歌いする。

<箏譜の書き方もあわせて習得する>

1. 四人一組のグループに分ける。

各グループに4人で、一人ずつ役割を担当

一段（序の段）、二段（破の段）、三段（急の段）、四段（結の段）

2. テーマを先生が提示。短い言葉のイメージに、音付けをする。

お題 / （例）『夏は夜』清少納言 枕草子

〔調弦：平調子、古今調子、乃木調子、楽調子から各グループごとに選ぶ〕

「一段」夏は夜。月のころはさらなり。

「二段」やみもなほ、蛍の多く飛びちがひたる。

「三段」また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。

「四段」雨など降るもをかし。

3. 言葉に音をつける。（簡単なルールを設定/ 下記の音符を含めて音付けする）

一段（序の段） 二分音符＋四分音符

二段（破の段） 四分音符＋八分音符

三段（急の段） 八分音符＋十六分音符

四段（結の段） 八分音符＋四分＋二分＋全音符

4. 箏譜（短冊）に各自記入、グループで台紙に張り一つの曲にする。

5. グループごとに出来た楽譜をコピーし、練習して弾けるようになる。

6. 各グループは創作した曲を弾いて発表。それぞれの曲を鑑賞して楽しむ。

熊本県高等学校教育研究会音楽部会研究協議会 平成 28 年 11 月 17 日～18 日

11 月 17 日 研究発表・研究授業「箏曲アンサンブルに挑戦」 講評

11 月 18 日 「箏に関する実習と講演会」

- ・ 組曲『夏は夜』～節と段物と序破急～
夏期研修で先生方が創作した作品を使って講習する。
平調子・古今調子・乃木調子・楽調子の『夏は夜』
を組曲にし、一作品ずつ全員で弾き歌いしていく。
- ・ <箏>価値観の多様さ～楽器としての国際性への進化
西洋楽器とのコラボレーション（映像）から
- ・ 昨今の邦楽を取り巻く状況
- ・ 質疑応答

講師 藤川いずみ

箏に関する講習会

<アプローチ>

- ・ 小中学校の邦楽教育と、高校ではどう違うのか？
- ・ 高校の教育現場で、実際に役立つスキルとテクニックとは？
- ・ 次々に起こる問題にどう対応すればいい？
- ・ 限られた時間の効率的な使い方や、目標に対してどうしたら到達できるか？
- ・ 昔はどうやって教えていた？愛情と信頼で何度も繰り返す、突き抜ける勇気。
- ・ グローバルな時代、学校での邦楽教育の重要性はますます高まっている。
- ・ 点でとらえてしまう箏の音、どこまで音楽が続いているのか？日本の響とは？
- ・ 他の日本楽器と比べて価値観の多様性があり、箏のジャンルは広がっている。

<講習会を行って>

先生方のご指導の様子を具体的にお聞きしたところ、

- ① これでいいのか？この方法が正しいのか、間違った所がないか不安。
- ② 教え方に自信があっても、毎年同じで自分自身の成長が感じられない。
との声を聞きました。指導者自身が何らかの進歩を実感できていることが、生徒に自信をもって教えることに繋がるのではないかと感じました。

☆ 邦楽教育を、現場で指導に立たれる先生方と一緒に考えて行くこと、そして箏の指導メソッドが必要とされていると実感した研究会でした。